

第141回神奈川大学日本常民文化研究所研究会



植民地台湾における漁場秩序の再編について —植民地期初期基隆庁下のテングサ漁場の事例から—

新垣 夢乃氏

神奈川大学日本常民文化研究所 所員
国際日本学部 助教

日時：2024年11月20日（水）17:30～19:00

参加無料

開催形式

対面：横浜キャンパス 9号館12室

オンライン：Zoomミーティング

※ 対面にて参加の場合は申込不要

オンライン参加 申込フォーム

申込み後、IDと
パスコードが自
動返信メールに
て送信されます。



神奈川大学日本常民文化研究所

植民地台湾における漁場秩序の再編について

—植民地期初期基隆庁下のテングサ漁場の事例から—

日本が植民地台湾で「発見」した資源の一つにテングサがある。このテングサに惹かれ、植民地台湾のテングサ漁場には日本本土の人々、沖縄の人々が集い、漁を営みテングサを商っていた。当然のことながら、そこには日本が台湾を植民地化する前から台湾の人々が暮らし、漁を営んでいた。

では、台湾のテングサ漁場にはどのような漁場秩序が存在していたのだろうか。また、台湾、日本、沖縄の人々が集うこととなった植民地台湾のテングサ漁場には、どのような漁場秩序が存在したのだろうか。この点について調べてきた成果を報告する。